

ACCESS

丸の内 119

発行
丸の内防火防災協会
丸の内災害予防普及会
監修
東京消防庁丸の内消防署

Vol.219

2021年2月



世界一安全なまち 丸の内をめざして

Bushooooo!

動画でわかりやすい!

密を避けた訓練をしましょう!



消火器の
使用方法



119 番通報要領



自動火災報知
設備の仕組み



様々な
搬送方法



キュータと学ぼう!
リモート防災訓練は
アプリから

東京消防庁
公式アプリ

テレワークでの社員教育等にご活用ください。

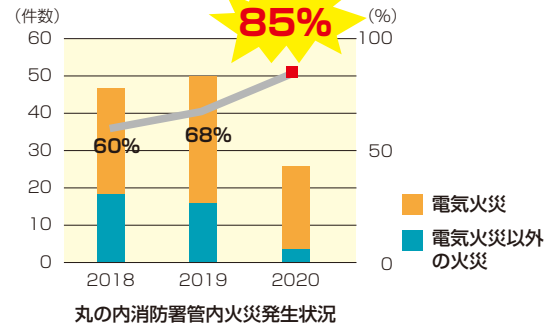
電気だから安心していませんか？

電気火災とは、電気や電気製品にかかわる火災のことをいいます。電気火災は近年増加しており、東京消防庁管内では1年間に発生した火災の30%以上を占めており、丸の内消防署管内でも毎年火災原因第1位となっています。

令和2年中の丸の内消防署管内の火災件数はテレワーク導入等の影響もあり、26件と前年の50件から約半数に減少しました。

しかし、26件中22件(85%)が電気火災であり、例年以上に電気火災の割合が急増しました。電気火災の中でもコード、プラグ、コンセント等に起因する火災(以下「電気コード火災」という。)は、火を使用している意識がないため、火災に気付きにくく大変危険です。

私たちの日常生活に必要なエネルギーですが使用者のちょっとした不注意で火災に繋がってしまいます。



電気コード火災を防ぐポイント

トラッキング

コンセントに差したプラグの差し刃間についたほこりが湿気を帯び小さなスパークを繰り返し、電気回路が形成され出火！



定期的に点検・清掃する

使わないプラグは抜いておく

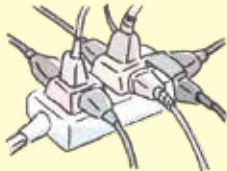
見えにくい場所のコンセントは特に注意する

トラッキング火災は、隠れた部分で発生することから、発見が遅れて思わぬ被害につながることも……。電気製品を使用していなくても、電源が「OFF」であっても、コンセントにプラグが差さっているだけで発生します！



過多の電流が流れる

タップを決められた容量以上で使用すると発熱し火災の原因に！



タップは決められた容量内で使用する

電気製品で長年使用している製品は異常がないか点検したり、耐用年数を確認することも有効だよ！

金属の接触部が過熱する

プラグがコンセントにしっかり差込まれていなかったり、プラグの差し刃が変形していたりすると、過熱して火災の原因に！



プラグはコンセントにしっかり差込む

プラグ・コンセントは変形等がないか定期的に点検する

電線が短絡(ショート)・半断線する

電気コードの家具等の踏みつけ、束ねての使用、折れ曲がったままの使用は、コードの被覆の損傷や温度上昇、経年劣化による短絡(ショート)・半断線を引き起こし、火災の原因に！



束ねて使用しない

折れ曲がりに注意する

電気コードを家具の下敷きしない



リチウムイオン電池による

～丸の内消防署管内で発生した火災～ 非純正品バッテリーから出火

スマートフォンのバッテリーの持ちがよくないため、プラスチック製のヘラを利用して本体からバッテリーを外した途端、「シュー」という音と白煙が発生しバッテリーを床に落としたため、バッテリーと床が燃えた火災です。



- 購入する際は、電気製品が安全性を満たしていることを示す「PSEマーク」が付いている製品にしましょう。
- 膨張、異音、異臭などの異常が生じたものを使用するのはやめましょう。
- 充電が最後までできない、使用時間が短くなった、充電中に熱くなるなどの異常がある場合には使用をやめて、メーカーや販売店に相談してください。
- 容易に取り外せない場所にあるリチウムイオン電池は、無理に取り外すのはやめましょう。

～事業所の皆様へ～

消防計画の変更について

近年、電子機器の充電式電池の多くにリチウムイオン電池が使用されており、当該電池に起因する火災が増加しています。リチウムイオン電池の適正な取扱い等について、消防計画に定めるようお願いします。

詳しくは、消防署にお問い合わせください。

消防計画

「従業員の守るべき事項」への追記例

・・・(略)・・・

モバイルバッテリー等のリチウムイオン電池は、取扱い上の注意事項に留意して使用するほか、廃棄する場合は他のゴミと適正に分別する。

・・・(略)・・・

地震に備えよう！

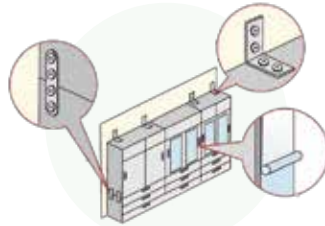
東日本大震災や過去に起きた地震における災害の教訓を踏まえて、私たちが今できることは、少しでも被害を軽減することができるよう、一人ひとりが地震に備えることです。いつか準備しようではなく、今準備しておくことが大切です。

家具類の転倒・落下・移動防止対策

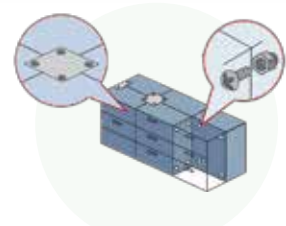
東日本大震災後、都内の中高層建物のオフィスにアンケートを実施した結果、20%のオフィスで家具類が転倒・落下・移動したとの回答がありました。オフィスなどの職場による家具類の転倒・落下・移動防止対策は、地震が発生した場合に、職場で働く人々や訪れた人々の負傷を防ぐことに加え、大切なデータや書類などの経営資源を守り、事業継続を図る上でも大切な対策です。



- キャスターをロックし、アジャスターを使用しましょう。
- ベルトなどで壁面に連結しましょう。



- 床・壁・天井と必ず固定しましょう。
- 落下防止を取付けましょう。
- 二段に重ねる場合は必ず上下を連結した上で、床、壁と固定しましょう。



- 上部をツナギ材で連結しましょう。
- ボルトは直径6mm以上のものを使用しましょう。

家具類を固定しておくことはもちろんですが、万が一固定していた器具がはずれて転倒や移動した場合でも、被害を受けにくいレイアウトの工夫を行うことも大切です。

非常時のために備えておくもの

東日本大震災では地震の影響で東京都内の交通機関が停止したため、約 515 万人の帰宅困難者が発生し首都圏を中心に大混乱しました。

地震発生直後は、電気、ガス、水道などのライフラインが途絶し、交通機関の停止等により従業員等の帰宅ができなくなるのが予想されることから、従業員等(従業員、在館者等)が事業所内に待機できるよう、3日分の必要な非常用品等を準備しておく必要があります。

非常用品等として準備しておく便利なもの

種別	品名
応急手当用品	医薬品：殺菌消毒剤、やけど薬、止血剤等 救急用品：止血帯、包帯、ガーゼ、三角巾、ばんそうこう等
救助作業用資器材	ジャッキ、のこぎり、パール、スコップ、担架、毛布等
非常用品	懐中電灯、拡声器、ラジオ、電池、ビニール袋、軍手、タオル、防水シート、毛布、ヘルメット等
非常持ち出し品	重要書類等



火災が増えています！



リチウムイオン電池を使用した製品の一例



他にも電動自転車のバッテリーやハンディファンなどリチウムイオン電池を使用した製品はたくさんあるよ。



～捨てるのではなくリサイクルへ～



使わなくなったリチウムイオン電池は、事業団体が回収するリサイクルへ出しましょう。地域の回収方法をよく確認し、可燃物や不燃ごみなどに混ぜて廃棄するのは、絶対にやめましょう。

どこで回収しているの？

①一般社団法人JBRCホームページ
<https://www.jbrc.com/>

②モバイル・リサイクル・ネットワーク
<http://www.mobile-recycle.net/>
(一般社団法人電気通信事業者協会・一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会)



東日本大震災から10年



丸の内消防署長
佐藤 睦

地震発生時、私は装備工場（渋谷区幡ヶ谷にある東京消防庁の車両を車検、整備等する工場）にいました。整備中の車両はリフトアップしているものもあり、転落の危険があることから、すぐに確認にしましたが、幸いにも職員も車両も無事でした。情報収集をしていると、福島第一原子力発電所の事故で、津波により電源を喪失した原子炉の制御がきかなくなったという情報が飛び込んできました。

数日後、福島第一原子力発電所における冷却放水の方法について、至急検討することとなりました。当初は消防車両により放水を行うものでしたが、消防車両による連続放水では燃料補給の必要があるため、遠隔で操作し、安全に連続放水が可能な「電動放水システム」を早急に、具体化することになりました。

すぐに作業に取りかかり製造に必要な電動ポンプを製造メーカーに問い合わせましたが、我々が必要としている大きさの電動ポンプは受注生産のため在庫がなく、今回のミッションに間に合わないことが判明しました。計画そのものが頓挫してしまう状況でしたが、あるメーカーから高層建築物の消防設備用に納品予定の電源ポンプを納品先の企業の承諾を得たので提供可能であるとの情報があり、すぐにこのポンプを使った放水システムの検討に入りました。当時は、短時間で製作し、テストもせずに性能を発揮しなければならず、失敗が許されない状況でしたが、力を合わせて製作開始から、2日間ほどで電動ポンプによる連続放水システムを構築することができました。

ものづくりに限らず、普段から何事にも興味を持ち調べることや、様々な分野の技術を組み合わせ、何通りもの方法を考えることが不測の事態で生きてくることを改めて実感しました。災害には事業所の皆様と立ち向かうことが大切だと強く感じています。



丸の内消防署から見た地震発生直後の様子



都民防災担当係長
大久保 健二

私は先遣隊の交替要員、消火部隊の小隊長として気仙沼に派遣されました。同行したのは私と同年代の機関員（消防車両の運転手）と入庁して1年程度の若い隊員が2名でした。現地に向かうマイクロバスでは皆緊張した面持ちで口数も少なめでした。若い職員に対して「これから悲しみに包

まれた場所に行くが、その悲しみに飲み込まれてはダメだぞ。気をしっかり持って活動にあたるぞ。」と話かけました。

一閃インターで高速を降りて、一般道をサイレンを鳴らして走行していた時に、祈るようにこちらを見ていた住民の方の眼差しが今でも記憶に焼き付いています。現地では鹿折地区と内の脇地区の警戒活動にあたりました。両地区は瓦礫が山積みされており、泥が乾燥し巻き上げられた泥埃と油のにおいが酷く、マスクがないと息苦しく感じるほどでした。町中ではトラックが建物の2階に突き刺さっていたり、巨大な重油タンクが横倒しになっている等悲惨な光景が広がっていました。警戒にあっている際に住民の「行政の捜索活動が遅れている。この瓦礫のどこかに家族がいるんだ。」との声を耳にし、自分たちの無力さを痛感しました。派遣期間中は幾度となく携帯電話から緊急地震速報が流れ、震度4を超える余震が何回もあり、毎日就寝前には隊員と一日の活動を通して感じたことや思ったことをお互いに話し合っ心ケアをしました。私は震災の翌年、家族を連れて復興途上の気仙沼を訪れました。

震災から10年、またいつの日か完全復興を遂げた気仙沼の街を訪れたいと思っています。



被災地での活動の様子（写真左・著者）

病院へ行く？救急車を呼ぶ？迷ったら…
電話でも！ ネットでも！

7 1 1 9

東京消防庁 東京都医師会 東京都福祉保健局



電話で相談

東京消防庁救急相談センター

#7119 電話



ネットでガイド

東京版救急受診ガイド

#7119 検索

■ 丸の内消防署 [電話] 03-3215-0119 [FAX] 03-3213-2589

■ 有楽町出張所 [電話] 03-3213-0119 [FAX] 03-3213-6099

E-mail marunouti3@tfd.metro.tokyo.jp